

東濃圏域 各医療機関の2025年に向けた対応方針【①今後の方向性】

NO	状況	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2025年に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し						
						① 病床 機能	② 病床数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持	具体的な内容
2	変更	社会医療法人 厚生会 多治見市民病院	多治見市	<p>【現状、特徴】 多治見市には、二次医療機関としての多治見市民病院と三次・高度医療機関である県立多治見病院があり、双方の役割を有機的に運用するための連携に努めている。また、専門医療に関しては、両病院の特色を出して補完しあうよう工夫し、医療機能分化を明確にしている。令和3年度は多治見市の救急搬送全体の36%、2,073件の救急搬送患者を受け入れた。 令和2年6月から回復期リハビリテーション病床を40床から50床とし、現在248床で運営している。 平成30年度から認定された臨床研修病院基幹型では、令和3年度3名、令和4年度3名の研修医を採用し計画通りとなっている。 令和2年4月から新型コロナ患者用に24病床を開放しているが、一般病床の令和3年度の平均在院日数は14日、病床利用率は全体で73.9%となり、東濃医療圏平均68.8%を5.1%上回っている。(東濃医療圏3市の病床利用率は30%~50%代の病床利用率である。) 在宅医療の充実に関して、特定行為看護師による周辺高齢者施設4施設に定期的に巡回を行い、重症化する前の患者受け入れを進めている。</p> <p>【課題】 1) 医師の確保 現在常勤医師40名であるが、5事業の更なる充実を図るため救急医、麻酔科医の確保 2) 血液透析室の充実 患者数の増加による増床 3) 午後の専門外来の充実 4) 外来患者数増加に伴う検査室の拡充と駐車場整備 5) 休棟病床再開に向けた検討 (コロナ渦で人員の確保が困難なため休棟中)</p>	<p>三次医療を主体としている県立多治見病院では、比較的中年者を対象としている。当院は高齢者の肺炎・感染症に対応する必要があり、今後さらに必要度が高くなることが予想される。医療提供の量としては、回復期リハビリテーションと同様に、急性期医療が必要で、他施設との医療連携を充実させ地域完結型医療を担う。</p>		○					<p>休棟病床については、新型コロナウイルス感染症が収束し、人員の目途が立ち次第運用を再開予定。ただし、病床区分としては高度急性期ではなく、回復期(地域包括ケア病棟)を積極的に検討する。</p>
13	新規	中西ウィメンズクリニック	多治見市	<p>【現状、特徴】 生殖医療をはじめ、幅広い年齢層の患者様に寄り添った産婦人科医療を提供しています。</p> <p>【課題】 特になし。</p>	<p>少子化問題に真摯に向き合い、分娩数の維持・増加に努める。</p>						○	<p>地域の産婦人科医療を維持・継続していく上で、現状の病床機能を維持することが重要であると考えます。</p>
19	変更	林メディカルクリニック	中津川市	<p>【現状、特徴】 東濃の極東地域で、唯一の民間周産期施設として、分娩・手術を担っているまた、高齢化にともない不妊治療や更年期以降の女性特有のトラブルに対応している。</p> <p>【課題】 出産数の減少が著しいため、分娩を取り扱うことが、経済的負担となる可能性がある。</p>	<p>出産数の減少が著しいため、分娩を中止し、婦人科として不妊治療や更年期以降の女性特有のトラブルに対応していく。</p>	○	○					<p>令和5年4月1日より全病床を削減し、無床診療所化を予定。</p>
22	新規	林外科内科	恵那市	<p>【現状、特徴】 休床中</p> <p>【課題】 —</p>	—		○					<p>今後、病床をなくす方向で検討中。</p>